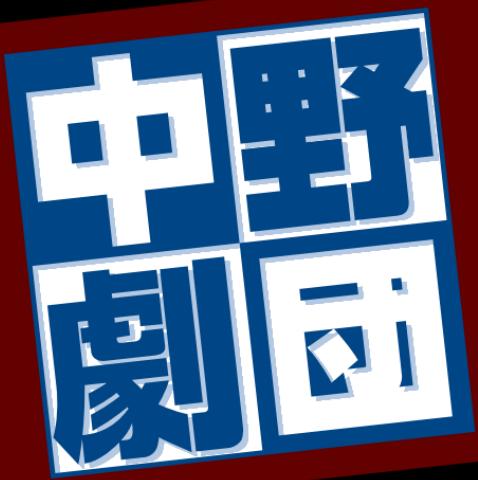


レ
ッ
ス
ン



レッスン

作・中野 守（中野劇団）

登場人物

先生

純子

奏者

先生と純子がコンクールに向けてレッスンをしている。隅で何の楽器かわからない奏者が椅子に座つて待機している。

純子 カマラヤニタ、マホラソネ、ンカタパヤラワー。シポロロアパノパヤー。

難しそうな表情で聞いている先生。

純子

ズンショボレンショタツクナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャーヌチャグホツ。

先生 違うでしょ。最後はそうじゃないでしょ。ちゃんと家で練習してきただの？

純子

しました。

いい？ すん子ちゃん。

純子

純子です。

先生 ただ音を拾つんじゃないの。心の流れを理解しなきや。ガチャピニウスの中期の作品は、どれも繊細さが命なの。もう一度。ズンショから。

純子 ズンショボレンショタツクナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャーヌチャグホツ。

先生 違う。何度も言つたらわかるの？ そこは前にマツソヨがあるでしょ。マツソヨの意味は？

純子 ……わかりません。

先生 先週も言つたでしょ？

純子 すみません。

先生 コンクール近いって自覚ある? マツソヨはセミの抜け殻の中にチヨコを流し込んで作るお菓子のことよ。いい? すん子ちゃん。

純子 純子です。

先生 当時、ノンベンタラリッヒ伯爵領では、セミの抜け殻は離れて行く恋人達の心を喰えるものだったの。情景を浮かべながらじゃないと、伝わらないでしょ。セミの抜け殻の気持ちになれてないんじやない?

純子 すみません。

先生 もう一回やってみて。

純子 はい。何処から……。

先生 ズンコから。

純子 ……ズンショからですか。

先生 そう。

純子 ズンショボレンショタツクナイ、チョペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャ一
ンチャグホツ。

先生
違一、二。

• • • • •

先生 純子 先生

先生

いい？ 第3チヨベリが始まつてからずっとヘロ、コカ、ヘロの繰り返しがここで初めてアヘなのよ。わかる？

純子
んん?

先生

先生 もう一回

紅
子

絶手
はい
スンシヨリ

はい。ズンショボレンシヨタツクナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、
チャーンチャグホツ。

問

先生

先生 どうしゃつたの？ 具合悪いの？

純子
……大丈夫です。

先生
いい?
先生がやるからよく聞いてて。

純子
はい。

先生

先生
(奏者に) 頂戴。

奏者 エフ（口で言う）。

先生
……ズンショボレンショタツクナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、
チャーンチャピヨヌツフ！

問。

純子

先生がやつたの、何処が違つたかわかつた？

純子はい

先生 情景を思い浮かべて。ノンベントラリツヒ伯爵家のチヨビヒゲーラ四世と平和部隊の女性リーダー。ボチャリーネの恋の終焉を予感させる重要な箇所なのよ。ずん子ちゃんも……。

純子 純子です。

先生 好きな男の子くらいいるでしょ。

純子
はい。

先生
……付き合つてるの？

純子 はい。

先生 そ。恋愛は自由よ。でもね、そのせいでコンクールを台無しになんてことしないでね。
じゃあ、もう一度ズンコから。

純子 ズンショからですか。

先生 そう。

純子 ズンショボレンショタツクナイ、チョペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャーンチャピヨヌツフ！

先生 よくなつたじゃない。さつきと全然違つわ。

純子 だつて全然……。

先生 じゃあ、続きよ。ここからは裏ヘツカンコに転調するから注意してね。

純子 はい。デベツサ、レポポポボ、クドン、クルワーチョ、ポコツ、ポフツ。

先生 違つ！ そこは髪の毛をこう！

純子 はい。

先生 もう一度、デベツサから。

純子 はい。デベツサ……。

終
わり。